

I 研究の概要

1 研究主題

主体的に考え 心豊かに生きる子どもの育成
～道徳教育の充実に向けた取り組みを通して～

2 主題設定の理由

平成27年7月、文部科学省より小学校学習指導要領解説（特別の教科道徳編）が示された。道徳科の授業では、子供が主体的に考え、議論する道徳科への転換を意図しており、このような新しい道徳教育の動きや社会の要請、本校のこれまでの研究の成果と課題から、研究主題主体的に考え「心豊かに生きる子どもの育成～道徳教育の充実に向けた取り組みを通して～」を設定した。

3 研究内容

（1）教師の発問・発言の吟味

一単位時間の主発問及び発問を想定し授業後に振り返るとともに、学年の発達段階に応じ視覚教材等を工夫することにより、児童が課題を自分ごとに捉え主体的効に発言できるようにする。

（2）「考え、議論する道徳」への進め方

一単位時間に児童同士が自分の考えをもって議論する場を意図的・計画的に位置付けることにより児童が自分の考えをもって、表現できる力の育成の方策を考える。

（3）「道徳科における二つの評価」の在り方

児童による自己評価を通して自分自身の思考や発言を振り返って対象化・意識化し「書く活動」により道徳的実践力を高める評価と教師による評価の在り方を考える。

（4）授業構成と時間配分

一単位時間の中で簡潔な導入で考えをもたせ、展開では考えを比べる、深めるようにし、終末では書く活動を位置付けて振り返られるよう授業の時間配分を考える。

4 研究計画

2年計画の2年目である今年度は、昨年度の成果と課題を踏まえてねらいを明確にして、教材提示の仕方や発問の吟味、道徳的な実践に生かせる評価の在り方を明確にすることをねらいとした。日常の授業実践を重ねて、研究授業において仮説の検証をしていく。

II 具体的な取組

1 教師の発問・発言の吟味

日常の授業をブロックで参観し合うことにより、学習過程の時間配分に則った適切な発問を取り出したり、児童が課題を自分ごととして捉えて主体的に取り組んだりするためには、どのような言葉が効果的なのかを検討し、その後の授業で生かせるようにしていった。

2 「考え議論する道徳」について

日常実践で授業で提示させた道徳問題について自分自身の体験と関連付けて考えたり、多角的・多面的な視野から考えたりできるよう問題解決的な授業づくりを行った。

3 「道徳科における二つの評価」の在り方について

児童の評価の具体的な手立てを道徳ノート、ワークシート、板書、発言・行動とし、積み重ねた資料を短期・中期的に変容を見取った。

4 授業構成と時間配分について

導入・展開・終末の学習過程で活動及びねらいを明確にするとともに、時間のバランスを考え、実践した。

III 実践の成果と課題

◇内容項目によって、「考える」時間を多くするのか、「議論する」時間を多くするのか、意識して授業することを確認した。

◇中心発問を工夫することで子供たちの思考やねらいとする道徳的価値を引きだすきっかけとなったことを確認した。

◇自分と違う立場や感じ方を持つ人がいることに気づき、道徳の時間を楽しみな時間だと言
う子が増えたことを確認した。

◇普段の生活の中で以前に行った授業と重なった時に話題にできるようになった。

◇ポートフォリオが積み重ねられてきて、自身の記録を大切にする児童の様子がみられたこ
とを確認した。

◇道徳の授業以上に学級の支持的風土が多く見られ、また担任を何とか助けようという意識
が多く見られたことを確認した。

IV 来年度へ向けて

2か年の研究となっていたが、1年延長することにより小・中学校種間の段差を解消し、
9年間の学びを一体のものにとらえ、発達段階を踏まえた一貫性のある継続的な指導になる
よう推進する。

第2学年 道徳学習指導案

日 時 令和元年9月25日(水) 第2校時
児 童 函館市立高丘小学校2年1組25名
指導者 大場 明子

1 主題名 「あたたかい 心」 【B-6 親切, 思いやり】

2 教材名 「くりのみ」 (『小学道徳 生きる力2』日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

よりよい人間関係を築くためには、相手に対する思いやりの心を持ち、親切にすることが必要である。自分の考えや利益のみを優先するのではなく、相手の気持ちや置かれている状況を自分のこととして想像し、相手にとってよかれと思う行為を選択する判断力を身につけるとともに、自ら進んで温かい心で親切にしようとする心情を育てたい。

(2) 児童の実態について

(3) 教材について

寒い冬が近づき、食べ物を探しに出かけたきつねがうさぎと出会う場面から始まる。きつねは、たくさんのどんぐりを見つけ、自分の蓄えとして誰にも見つからないように隠した。その後、うさぎと再会し、「何も見つからなかった」とうそをついてしまう。それを聞いたうさぎは、きつねを気の毒に思い、たった2つしかない栗の実のうち1つを差し出した。その優しさに涙を流すきつねの思いを話し合うことを通して、相手の立場に立って思いやり、困っていたら助け合っていくことの大切さを考えることができる教材である。

4, 指導の工夫について

(1) 主体的な学びとなるために

教材をアニメーションで提示することで、どの子も内容を理解できるようにする。また、誰の気持ちについて考えるのか明確にさせるため、初めに課題意識をもたせる。

(2) 子どもの価値観をゆさぶる問い返し

登場人物の気持ちをしっかりとらえさせた上で、お互いの気持ちを考えながら演じることを通して、多様な価値観を引き出すことができる。

(3) 考えを広げ、深める話し合い活動の工夫

友達の意見や教師の問い返しを受けて、反応することで、あらためて自分の考えを見つめ直し、考えを広げたり深めたりすることができるようあえて問題解決的な学習過程をとった。

5, 本時について

(1) 本時のねらい

どんぐりを独り占めして隠したのに、友達から栗の実を一つわけてもらおうというやさしさにふれ涙を流したきつねの姿から、困っている人をいたわる温かい心を考えさせ、互いに助け合っていこうとする心情を育てたい。

(2) 本時の展開

過程	学習内容 (○), 主な発問 (●), 予想される反応 (・)	留意点 (・), 評価方法 (※)
<p>導入 (見通しをもつ) 10分</p>	<p>○教材文を読んで, 見通しをもつ。</p> <p>●きつねは, さいごに どんなかおをしたでしょう。</p> <p>○考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困ったかお ・悩んでいるかお ・うれしそう ・ふしぎに思っているかお など <p>○どんな話だったかもう一度振り返り, きつねが最後になみだを流したことを知る。</p>	<p>・晩秋のイメージをもたせる。(写真)</p> <p>・教材文の内容をしっかりと理解できるように, アニメーションで朗読する。</p> <p>・黒板に挿絵を掲示して確認。 ※状況を理解できたか。【表情】</p>
<p>展開 (考えを比べる・深める) 28分</p>	<p>○プリントに「なみだをながした」と書く。</p> <p>○めあてを知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>きつねは, どうしてなみだをながしたのか考えよう</p> </div> <p>○自分の考えを書く。(3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎからくりのみをもらってうれしかったから。 ・くりは見つけていなかったから, うれしかった。 ・「うそをついてごめんね」と, 思ったから。 ・うそをついてしまったことが恥ずかしかったから。 ・うさぎにどんぐりのことを言えなくて, つらかったから。 <p>○考えを伝え合う。(グループ交流)(5分)</p> <p>※班長が進行し, 全員の考えをしっかりと聞き合う。</p> <p>※声の大きさ2 (グループの中で話す)</p> <p>○うさぎの優しさに気づき, きつねが後悔していることを知る。(全体交流) (8分)</p> <p>※声の大きさ3 (教室全体に聞こえる声で話す)</p> <p>※うさぎの優しさがきつねの心に強く響いたのか, 自分自身の反省する心が強いのか, より強いと思う方に名前カードを貼る。</p> <p>●きつねは, この後, うさぎとどんな話をしたでしょう。</p> <p>○役割演技をしながら, 考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本当は, どんぐり見つけていたんだよ。 ・うそをついていてごめんね, うさぎさん。 ・今から, どんぐりをあげるよ。 ・自分のことばかり考えていたよ。ごめんね。 	<p>プリントを配布</p> <p>・自分の考えをまとめられなかった子は, 交流を通して「そうだな」と思った意見を書いてもいい。</p> <p>・どうして～に対する答え方に注意</p> <p>※考えを伝え合うことができたか。 【机間指導】</p> <p>・交流は班の中での交流とする。</p> <p>・自分自身の考えをはっきりさせるため, 名前を表示する。</p> <p>※きつねの心情を考えながら, 真剣に取り組むことができたか。【表現】</p> <p>※きつねの後悔する気持ちを子どもたちは共感できたか。【表現】</p> <p>・相手意識をもちながら, うさぎ役を立てて丁寧に会話させる。</p>
<p>終末 (ふりかえる)(ひろげる) 7分</p>	<p>●友だちに親切にしてもらったことはありますか。</p> <p>○自分の生活をふりかえり, きつねのように, だれかに何かをしてもらった(たすけてもらった)時のことを思いだし, プリントに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落とした消しゴムを拾ってもらってうれしかった。 ・なわとびを一緒に探してもらってうれしかった。 ・転んだ時, 保健室に連れて行ってもらってうれしかった。 ・プリントをひろってくれた。 <p>○教師の説話を聞く。</p> <p>普段の子どもたちの様子から優しい気持ちが伝わってきていることを理解する。</p>	<p>・その時, どんな気持ちだったか意識させる。</p> <p>・何気ないことでみんなで助け合っていることを実感させ, 余韻を残して終える。</p>

(3) 板書計画

<p>こうかい</p> <ul style="list-style-type: none">・はずかしかったから・どうそぐりを一人じめしたから	<p>かみしや</p> <ul style="list-style-type: none">・うさぎが大切なくりをくれたから・うれしかつたから・うさぎさん、ありがとう	 <p>なぜ きつねは なみだを ながしたのか</p>	<p>うさぎ と再会 のした 絵の時</p> <p>きつね 何も見つかりません</p> <p>うさぎ くりを一つだけ</p>	<p>つねの絵</p> <ul style="list-style-type: none">・どんぐりを独り占めするき・だれにもやらない・うさぎに見つからないようにしよう・やっただ	<p>さむい冬</p>  <p>食べものがない</p> <p>おなががすいている</p> <p>冬の間のたべものをさがす</p>	<p>【ホワイトボード】 プロジェクターで映し出す その後 教材名と</p> <p>うさぎと きつねが 出会った 絵を貼る</p> <p>くりのみ</p> <p>あたたかい 心</p>
--	---	--	--	---	--	--

(4) 座席表

(5) その他 日文のノートでは、ふり返りで親切にしたことを書かせる設問であるが、本時では助けてもらったこと（親切にされたこと）とした。

第3学年 道徳学習指導案

日 時 令和元年11月20日(水) 第5校時
児 童 函館市立高丘小学校3年1組 22名
指導者 教 諭 中 村 こず恵

- 1 主題名 「友だちの気持ちになって」 【B-33 友情, 信頼】
- 2 教材名 「たつきゅうは四人まで」 (『小学道徳 生きる力3』日本文教出版)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

友達とは、家族以外で特に深く関わりをもつ、仲のよい存在である。自分の考え方や行動など、さまざまな面で影響を与え合う友達は、自分の人生を豊かにしてくれる存在であるとも言える。しかし、友達だからこそ、頼りきりになったり、言い過ぎてしまったりすることもある。友達との関係をよりよいものにしていくためには、友達に対する自分の対応を見直すことが大切である。

友達とよりよい関係を築くためには何が必要であるかということについて、友達の気持ちを理解し、よりよい友達関係を築いていこうという心情を高めたい。

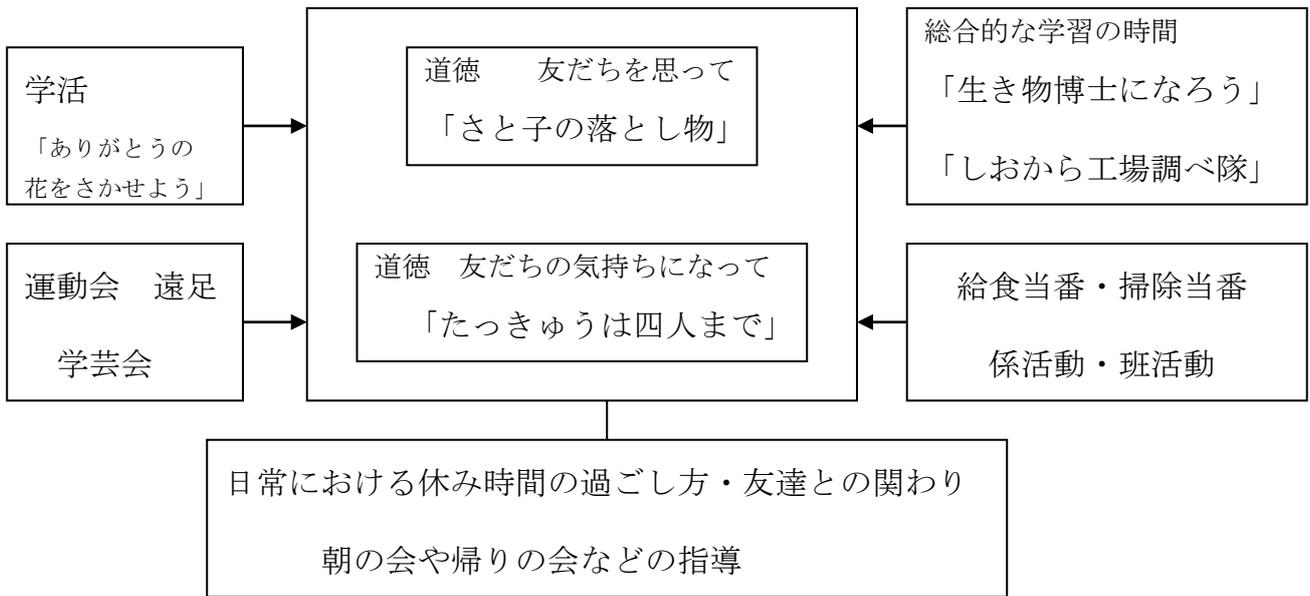
(2) 児童の実態について

(3) 教材について

本教材は、しゅんたちが、放課後にスポーツセンターへ卓球をしに行く約束をする場面から始まる。友達のとおりが「なかまに入れてくれないか。」と言うが、しゅんは「4人まで。」と断る。しかし、しゅんは卓球を楽しめない。こういった自分の都合で友達を傷つけてしまい、そのあと、後悔してしまうことは、児童の生活に身近にもあると言える。

友達だからこそ、一言の重みに気づかねばならないこともある。友達とのよりよい関係を築いていくためには、友達の立場にたって考えることが必要であることに気づかせることができる教材である。

4 他の教育活動とのつながり



5 指導の工夫について

- (1) 主体的な学びとなるために
導入部分などで、『友だちアンケート』の結果を話し、実際の学級での場面を想像しながら自分のこととして考えさせる。
- (2) 自分の考えを明確にするための工夫
紅白帽子の色で自分の考えを示すことで、自分の考えを明確にするとともに、友達の立場も知ることができるようにする。
- (3) 子どもの価値観をゆさぶる問い返し
とおるの願いを断ったしゅんに対して、「よくない」という意見が多く出てくることが予想される。よくないと考える理由を問うことで、とおるの気持ちを考えずに自分の都合だけでことわってしまったしゅんの気持ちを確認する。同時に、「たっきゅうは4人までしかできないよ」などと問い返し、しゅんの側にも理由があったことを捉えらせる。
- (4) 考えを広げ、深める話し合い活動の工夫
主人公の気持ちに焦点をあてて考えさせることを通して、友達とよりよい関係を築いていくためにどうすればよいかという考えを深めさせるようにする。
交流の場では、全体交流とともに自由交流の場を通して、一人ひとりの考えをじっくりと聞き、また、聞いてもらうことで考えが深まっていくような話し合いにさせたい。

6 本時について

(1) 本時のねらい

友達のことを大切にできない時の後ろめたさについて深く考えることを通して、相手の気持ちを考え、友達のことを互いによく理解して、友達を大切にしようとする心情を深めたい。

(2) 本時の展開

過程	学習内容 (○), 主な発問 (●), 予想される反応 (・)	留意点 (・), 評価方法 (※)
導入 (見通しをもつ)	<p>○友達とトラブルになった経験を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手伝おうとして「やらなくていい」と言われた。 ・「やめて」といってもやめてくれないことがあった。 <p>○教材文 (はじめの部分) の内容を知る。</p> <p>●仲の良い3人を誘った時のしゅんはどんなことを考えていただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ようやく予約がとれた。 ・今日は楽しみだな。うれしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『友だちアンケート』の結果から実際の学級での場面を想像しながら自分のこととして考えさせる。
展開 (考えを比べる・深める)	<p>●しゅんがとおるの願いをことわったのは、どんな気持ちからだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダブルスだから、4人でないとだめ。 ・やっと予約がとれた。一時間半と決まっている。 ・とおるは特別仲よしでもないし。 ・気の合う友達と行きたい。 ・自分が勝手に入れたら何か言われるかも。 <p>●とおるの願いをことわったしゅんをどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを示す。 ことわるのは「よくない」 赤 ことわるのは「しかたない」 白 わからない・どちらともいえない「真ん中」 <p>ことわるのは よくない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交代でやればよかった。 ・もっと優しく言えばよかった。 ・また今度と言えばよかった。 <p>しかたない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卓球は4人でやるからしかたない。 ・特別に仲が良かったわけじゃない。 ・先に4人で約束していたから。 <p>真ん中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人でやりたい。でも仲間はずれはよくない。 ・仲間に入れたほうがよいことはわかっているけど、できないときもある。 <p>○全体交流を行い、考えを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをはっきりさせるために紅白帽子をかぶり、赤・白を示す。 ・どちらか迷う場合は、真ん中の考えも認める。 <p>※自分の考えで判断し、その根拠を明確にすることができたか。 (紅白帽子・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とおるの気持ちを考えず、自分の都合だけで断ってしまったしゅんに対する「よくない」という気持ちを確認しつつ、その理由を問うことで、何がよくなかったのかという道徳的な問題点を明らかにしていく。 ・ことわったしゅんにも理由があったことを捉えさせる。

	<p>○教材（終わりの部分）の内容を知る。</p> <p>● 卓球を「あまり楽しめなかった」時、しゅんはどんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さっきは悪いことを言ってしまった。 ・ とおるは親切にしてくれたのに。 ・ とおるをさそったのに断られてしまった。 ・ とおるを傷つけてしまった。 ・ 最初から入れてあげればよかった。 ・ もう一度謝ろう。 ・ 5人で遊んだ方が楽しいかも。 <p>○ペア交流後、全体交流を行い、考えを伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ しゅんが誘ったのに、なぜとおるは断ったのかを考えさせることを通して、しゅんの言葉でとおるが傷ついたことを捉えさせる。 ・ 他の友達もとおるのことが気になっていたことも確認する。 ・ 楽しくなるはずだった遊びが、友達との関係がうまくいかなかったことをきっかけに楽しめなかったことに気づかせることで、友達とのよりよい関係を築くことが大切であることを感じ取れるようにする。
<p style="writing-mode: vertical-rl;">終末（ふりかえる）</p>	<p>● 友だちとなかよくするためには、どんなことに気をつければよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の気持ちを考える。 ・ 相手の立場になって考える。 ・ 悪いなと思ったらすぐに謝る。 <p>○自分の考えを道徳ノートに記入する。 ○自由交流を行い、友達のノートを読み合う。 ○全体交流を行い、考えを伝え合う。</p> <p>●友達と仲良くするために、今日学んだことをどのように生かせるでしょう。 ○普段の様子から、友達の気持ちになって行動した言動について紹介する。</p> <p>○今日の授業を振り返り、自己評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ しっかり考えた ・ 新しく気づいたことがあった ・ これから大切にすることがわかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あらためて導入で考えたテーマについて考えを整理させることで、友達とよりよい関係を築いていくために必要なものについて、深く考えられるようにする。 ※相手の気持ちを考え、友達を大切にしようとする気持ちをもつことができたか。（道徳ノート・発言） ・ 今後の自分の生活における、よりよい友達関係の築き方について、期待と希望をもたせる。 ※学習を振り返って、あてはまる項目に○をつけることができたか。（道徳ノート）

（４）評価

- ・ 相手の気持ちを考え、友達を大切にしようとする気持ちをもつことができたか。
- ・ 主体的に考えて自分の考えをもったり、交流することを通して自分の考えを深めたりできたか。

(5) 板書計画

友だちとなかよくなるためには、
 どんなことに気をつければよいでしょう。

- ・友だちの気持ちを考える
- ・相手の立場になって考える
- ・悪いなと思ったらすぐにあやまる

あまり楽しめないしゅんは
 どんなことを考えていたか。

- ・とおるをきずつけて
しまった
- ・悪いことを言って
しまった

たつきゅうは四人まで
 友だち
 たつきゅうに行こう！

なかまに入れて

だめだめ。
 たつきゅうは四人まで

ことわったしゅんをどう思うか。

ことわるのは
 よくない

しかたない

(6) 座席表

友だちアンケート 集計結果



1 あなたが友だちにしてもらってうれしくなったり、心があたたかくなったりするのはどんな時ですか。

- 遊びに誘ってくれた時 (4)
- なぐさめたり声をかけたりしてくれた時 (3)
- 遊んでいる時 (3)
- 落としたものや探していたものを拾ってくれた時 (3)
- 掃除を手伝ってくれた
- 「だいじょうぶ？」ときいてくれたとき (2)
- ティッシュをくれた (2)
- 「ナイス」とほめてくれた時 (2)
- 代わりにかたづけてくれた時 (2)

→多くの児童が数個ずつ書くなど、たくさんのうれしかった経験を実感している。

2 あなたが友だちにされて悲しくなったり、心が重くなったりするのはどんな時ですか。

- 「ありません」 (11)
- 手伝おうとして「お前いい」「やらなくていいよ」「いいからあっち行って」と言われた (5)
- 内緒なのに話された (2)
- 「やめて」と言ってもやめてくれない。 (1)
- 『ダメだよ』と言ったら文句を言われた (1)
- 遊ぼうと言っても無視された (2)

→半数は「ありません」と記入したが、実際にあったトラブルを記入できた児童もいる。

3 あなた自身が、友だちによろこんでもらったり、「ありがとう」と言ってもらったりしたことがあれば教えてください。

- ひろってあげた
- 届けてあげた
- 集めてあげた
- 貸してあげた
- 手伝ってあげた
- 声をかけてあげた

→友達の役に立って感謝された経験について、たくさん思い出して記入できた。

4 あなた自身が、友だちを悲しませたり、おこらせたりしてしまったことがあれば教えてください。

- ありません (15)
- よけいなことを言った (1)
- けんかした (2)
- 勝手につかった (1)
- ぶつかった (1)
- けがをさせてしまった (1)
- 自分は気づいていないだけかも (1)

→「ありません」と記入した児童が半数おり、相手を傷つけたことを実感していない場合があると考えられる。友達の気持ちを考えずに、傷つけた場面があるのではないだろうか。

第6学年 道徳学習指導案

日 時 10月30日(水) 第2校時

児 童 函館市高丘小学校 6年1組 29名

指導者 野呂 智幸

1 主題名 「よりよいきまり」 【c-12 規則の尊重】

2 教材名 「クラスのきまり」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

学級、学校、社会などの集団には、法やきまりといった約束事がある。集団を維持するには法やきまりが必要であり、「決めごと」によって様々なトラブルを避けることができるようになる。人々が気持ちよく生活するためには、法やきまりという集団の規律を大切にしていかなければならない。

しかし、集団の規律は、個人の自由な意思によって守られもし、破られもする。集団を構成する個人の気持ちの持ち方いかんで、集団の規律は決まる。自己の自由と権利を行使しながらも、けじめのある生活をする事なしには「決めごと」の良さは手に入らない。短絡的にルールを破った子は厳しく罰するだけでなく、お互いが責任ある行動を果たそうとする心情が最も重要となることを捉えさせたい。

(2) 児童の実態について

(3) 教材について

本教材は、あるクラスの話合いの場面で、掃除の時間にさぼっている人たちに不満をもつ児童が、クラスのためには、罰のあるきまりを設けるべきだと主張するが、そのようなきまりを作るべきではないと反対されるというものである。きまりが自分たちを拘束するものではなく、自分たちの生活を気持ちよくするためのものであることを再認識させるとともに、自分ならどうするか考えさせる過程を通して、個々に課せられた責任を果たすように努力していきける気持ちをもてるようにさせたい。

4 他の教材活動とのつながり

6年 総合 「将来の仕事調べ」 (9月～10月)	6年 道徳 「クラスのきまり」(10月)	6年 総合 「地域交流の準備・高丘幼稚園」 (10月)
--------------------------------	-------------------------	-----------------------------------

5 指導の工夫について

(1) 問題を自分事として捉えるための発問の工夫

学級内に頻繁に見られる問題について取り扱うことで、どの子も自分のこととしてとらえやすくなり、興味が高まり主体的に学ぶことができる。

(2) 子どもの価値観をゆさぶる問い返し

罰を与えるきまりがあってもなくても大切なことはその他にあるということ気付かせるために、極端な例を示し、反論をしたい気持ちにさせる。

(3) 考えを広げ、深める話し合い活動の工夫

途中で少人数グループによる話し合いを取り入れることにより抵抗感なく気軽な気持ちで本音にせまった発言ができるようになる。また、意見の交流を行うことで、自分の考えと比較したり深めたりすることができる。

6 本時について

(1) 本時のねらい

罰の意味について考えることを通して、きまりの意義を理解し、自分は何をするべきか考え、義務を果たそうとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

	学習内容 (○)、主な発問 (●)、予想される反応 (・)	留意点 (・) 評価方法 (※)
導 入	<p>○きまりは何のためにあるか考える。</p> <p>●きまりは何のためにあると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんながもめごとなく過ごすため ・自分勝手な人をきちんとさせるため ・誰かだけが得をしたり楽をしたりしないため ・みんなが平等に生活するため 等 <p>○自らの普段を振り返る。</p> <p>●きまりを守らなかったことはありますか</p> <p>●きまりを守ろうとしていますか。</p> <p>○教材文を読み、つよし達、さとる、ひろみの立場の違いを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つよしのグループの状態 そうじの時間いつもさぼって遊んでいる。話し合いをしても他人事のような態度。 ・さとるの主張 掃除の時間遊んでいる人は、放課後居残り掃除にするといい。 ・ひろみの主張 掃除の時間さぼっている人がいていけないと思っている。罰のあるきまりには反対。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「きまり」がはじめからあるものではなく、必要があるから作るものだということを確認する。 ・児童に身近な例を示す。 ・黒板に状況を掲示して確認する。 <p>※状況を理解できたか【表情】</p>
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>よりよいきまりはどのような考え方を大切にして つくればよいのか考えよう</p> </div> <p>○この後、「ばつのあるクラス」と「ばつのないクラス」のどちらかに入るとすると、自分はどちらに入りたいかを理由を含めて考える。</p> <p>●あなたは、このあと、「ばつのあるクラス」と「ばつのないクラス」のどちらに入りたいですか。理由等も含めて自分の考えを書きましよう。</p> <p>【班での話し合い】</p> <p>●班の中で自分の考えを説明してください。考えの近さを考えて付箋の位置を決めて貼ります。まとまりごとに囲んで題名をつけます。後で発表します。</p> <p>【全体で整理する】</p> <p>○よいきまりを作る時に気を付けることを考える。</p> <p>●6年1組として立場が二つのままでは困るので考えを一つにまとめるとしたらどうしたらよいのでしょうか。よりよいきまりを作る時に、どんなことに気を付けて作りますか。</p> <p>(罰のあるなしまとめて発表)</p> <p>罰あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考えて必要なだけの罰を与える ・場合によっては罰が必要な時もあるかもしれないが、できるだけ少なくしていく。 <p>罰なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが努力すれば守れる範囲できまりを作る。 ・きまりを守ろうとする気持ちがあれば、罰は必要ない。 ・みんなが普通に守れるようになったらきまりはいらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・罰は、掃除をきちんとやらなかった人には「放課後に居残り掃除をさせる」こと。 ・どちらか一方に固まることがあれば極端な例を提示して「ゆさぶり」をかける。 ・話し合いの前に立場をネームプレートで表示する。話し合いの後に移動したい人は移動して良いこととして児童の心の変化をつかむ。 【ネームプレート】 ・それぞれの主張について考えることを通して考えを深める。 <p>※グループごとに話し合い、画用紙に記入させる。</p> <p>近いもの同士まとまりにして、罰がいる、いらぬの立場で分けてタイトルを書いたら書く。</p> <p>【発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もし、罰のあるきまりばかりだったらどう思うか考えさせることで、息苦しさやつまらなさに気づかせたい。 ・みんなが気持ちよく生活するにはどのようなきまりが必要なのか考えさせたい。 ・罰のあるきまりがなくともよいことに気づかせる。 <p>※自分の思いを発表させる。【発言】</p>
終 末	<p>○きまりを作ったら、みんなで守ることが大切であることを再確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりは、私たちが気持ちよく生活するためにあり、自分たちが作ったきまりは、みんなでしっかり守ることが大切であることに気づかせたい。 <p>※ワークシートに記入する。</p>

(3) 板書計画

きまりは何のためにあるのか

- ・みんながもめないため
- ・誰かだけが得をしないため
- ・平等にするため

きまり守られなかったことがある（人）

守ろうとしている（人）

④よりよいきまりはどのような考え方を大切にして
つくればよいのか考えよう

- ・さとりる↓掃除の時間遊んでいる人は放課後居残り掃除 **罰**が**いる**
- ・ひろみ↓掃除の時間遊んでいる人はいけない。 **罰**は**いら**ない
- ・つよしのグループ↓掃除の時間いつも遊んでいる。
他人事のような態度 **罰**は**いら**ない

罰のあるクラス

ネームプレート

罰のないクラス

ネームプレート

◇よりよいきまりを作るときに気をつけること

- ・みんなが努力すれば守れる範囲できまりを作る。
- ・きまりをしつかり守ろうとする気持ちがあれば、罰は必要ない。
- ・場合によっては罰が必要な時もあるかもしれないが、できるだけ少なくしていく。

◇みんなで守ろうとすることが大切

どちらのクラスがいいか		

(移動黒板)

(4) 座席表

○授業を終えて

- ・時間内に終わらせることに気をとられると、思うような手ごたえが得られない。もっと余裕を持った進め方ができるように内容の絞り込みが必要であった。手順等で確認事項が必要の無いように日常の授業の取り組みをパターンを決めて行ったり、日頃から作業を進めるときに時間を意識して行動できるようにしたりすることの必要性を強く感じた。
- ・付箋を使って意見を書かせたり、自分の立場をネームプレートで貼ったりの取り組みは子どもたち一人一人の立場がお互い確認できることがよいと思った。時間がたりなくてネームプレートの移動ができなかったが、考えの変容をつかむことが主たる目的だったのでできなかったのはとても残念だった。また、移動させてしまうと一人一人の考えがどう変化したのかという足跡がなくなるので、そこについても机上の掲示等でわかるとよいと思った。
- ・道徳のような正解がない学習では、本音で自分の意見を出し合えることが何よりも大切である。研究授業の雰囲気の中で自分の意見を大切に発表することができていた子たちはすばらしい。教材研究と共に学級経営が大切であることを再確認した。